論　文　内　容　要　旨

論文題目

高齢乳がんサバイバーの長期生存期における生活自己チェック表の開発と活用可能性の検討

教育・研究領域：生涯生活支援看護学領域

氏　　名：　　松　田　　芳　美

【内容要旨】

研究目的は、高齢乳がんサバイバーが、がん治療後の身体的課題や精神的不安、および加齢に伴う社会的変化に適応しながら生活するための、長期生存期における生活自己チェック表を開発することである。文献調査で作成した 4 概念 23 項目の生活自己チェック表の内容妥当性を、修正デルファイ法を用いて確認した。205 名の対象者に生活自己チェック表を用いて調査し活用可能性を検討した結果、23 項目中 18 項目で外的尺度との間に有意な正の相関を認めた。対象者の背景と生活自己チェック表との関連では、75 歳未満群、就労有群でがん検診受診率が高かった。通院頻度年 2 回以上群で、相談できる医療福祉専門職がいること、就労無し群および、治療後経過年数 5 年未満で、身体的課題へのセルフケア実施率が高いなどの有意な関連を認めた。高齢乳がんサバイバーの長期生存期における生活自己チェック表は、加齢に伴う変化に応じ、繰り返し使える指標になることが示唆された。

令和　7年　1月　7日

山形大学大学院医学系研究科長　殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名：松田　芳美

論文題目：高齢乳がんサバイバーの長期生存期における生活自己チェック表の開発と活用可能性の検討

審査委員：主審査委員　片岡ひとみ　印

副審査委員　森鍵　祐子　印

副審査委員　古瀬みどり　印

審査終了日：令和　7年　1月　6日

【論文審査結果要旨】

治療後、長期的な経過を辿る高齢乳がんサバイバーでは、後遺症や遅発性の晩期障害に対する継続的支援が求められる。本研究の目的は、高齢乳がんサバイバーがん治療後の身体的課題や精神的不安、および加齢に伴う社会的変化に適応しながら生活するため、長期生存期において、自分で評価できる生活自己チェック表（以下チェック表）を開発することである。研究は3段階で実施され、第1研究で文献からチェック表の項目原案69項目を生成、第2研究で修正デルファイ法を用い、専門家による内容妥当性を検証し23項目の内容妥当性が確認された。第3研究で高齢乳がんサバイバーを対象に、チェック表の外的尺度との相関、対象者の背景との関連を分析し、活用可能性を検証した。第3研究の対象者205名の平均年齢は71歳、病期Ⅰ期以下が93名（45.4%）、治療後経過月数平均55ヶ月で、チェック表23項目中18項目で相関を認めた。相関関係を認めなかった5項目は全て乳がんサバイバー特有の内容であった。対象者の背景とチェック表項目との関連に関するカイ二乗検定では、年代（75歳未満群と75歳以上群）、就労（有群と無群）で、乳がん以外のがん検診受診率等との関連を認め、治療後経過年数（5年未満群と5年以上群）では生活の工夫、通院頻度（年1以下群と年1回以上群）では副作用や後遺症を相談できる専門職の存在との関連を認めた。これらの結果より、第2研究で内容妥当性が確認された23項目のチェック表は高齢乳がんサバイバーが自分で繰り返し確認できる指標としての活用可能性が示唆された。

本研究について、論文および口頭発表に基づき審査した結果、研究の目的が明確で、方法も妥当であり、結果には新知見が含まれ考察も適切であることから、本研究は学位論文（博士）として相応しいものと評価した。

（1，２００字以内）